



# さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和7年10月31日 第7号

## 学校教育目標

- ・たがいに努める子(やる気)・たがいにきたえる子(元気)・たがいに手をとる子(勇気)

## 言葉

井上 雅史

さいたま市では、コミュニケーションの基礎となる「おはようございます」「はい」「ありがとうございます」「ごめんなさい」の4つの言葉を、「心を潤す4つの言葉」として推進しています。右のようなポスターを各教室や校内に掲示していますので、御覧になったことがある方もいらっしゃると思います。特に11月は、児童生徒・教職員・保護者・地域の方々が、積極的に気持ちの良い挨拶や返事、心を込めた素直な言葉を交わすことによって、一人ひとりの心が通う学校や地域づくりを目指すことを目的に、「心を潤す4つの言葉」推進週間を市内の各学校で設定します。宮原小でも、この4つの言葉を大切に教育活動に取り組んでまいります。

さて、私たちは日頃から、言葉で自分の気持ちや考えを表し、相手に伝えています。「心を潤す4つの言葉」のような短い一言で相手に気持ちを伝えることもできますし、いろいろな言葉を重ねてより詳しく伝えることもできます。言葉はとても便利なものです。

でも「自分の思いが相手にうまく伝わらない」「うまく言葉が出てこない」などと思った経験はないでしょうか。私はいつもです。特に咄嗟にその場で適切な言葉を選んで相手に伝わるように話すのはなかなか難しいです。後で落ち着いたころに「ああ言えばよかった」と、くよくよ考えてしまうこともあります。

先日、ある記事に「言いたいことを言語化することに才能やセンスは必要ない。」「自分の考えを整理することを習慣化すれば、自分の思いをスムーズに話せるようになる。」とありました。「口はわざわいの元」「沈黙は金、雄弁は銀」などと、黙することが美德であるように聞こえる諺もあります。しかし、話をする力があれば、わざわいを起こすようなことはないかもしれません。

そこで、考え方を整理することの例題として、次のような場面で考えてみます。

「Aちゃんは、国語は得意だけれど、算数は苦手です。国語の勉強は苦にならないし、テストではいつも100点です。でも算数は違います。計算式見るとなんだか苦しくなってきます。ですからテストの結果は国語の半分も取れません。そこでAちゃんは、次のテストに向けて、算数の勉強を自分なりに頑張ることにしました。それから毎日、算数の勉強に多く時間を使いました。そして数日後、あまり勉強しなかった国語と一生懸命勉強した算数のテストを受けました。翌日にテストが返ってきました。国語は100点算数はいつもより少しだけ上がった55点です。Aちゃんは家に帰るとすぐ、おうちの人人にそのテストの結果を見せました。」（このAちゃんについてどう思いますか。なぜそう感じたのですか。）

先ほどの記事では「自分がどう感じたか、そして、それはなぜかを自分に問いかける。」ことで、「なんとなく感じていること」を具体化でき、話をする力を伸ばすことに役立つそうです。自分の感じたことを自分に問いかけることが大切で、内容には正解というものはありません。

私は苦手なことに挑戦するAちゃんが頑張り屋だと感じたので、テストの結果ではなくそれまでの努力の過程に注目し、Aちゃんがこれからも前向きに努力を続ける言葉を考えたいと思いました。

現実の場面では、結果に注目しなければいけない場合や、叱咤激励が必要なこともあると思います。しかし、子どもに対しても大人同士でも、できるだけ未来が明るくなつて力が湧いてくる話が出来たら、そんな話のできる力を身に付けられたら素敵だなと思っています。

